

聖書ルカ 17:20～37

2018/12/30

## 「神の国はいつ来るのか」

## 1. はじめに

- ・神の国についての問である。(いつ、どこで)
- ・神の国はどのように受け止められていたか。

## 2. 本文

\* イエスが活動されていた当時、再臨はすぐ来ると考えられていた。(ルカ 19:11) 特にパリサイ派は二つの特徴をもって、われわれは救われると信じていた。一つは律法厳守、他は異邦人との交際禁止である。パリサイ人にとって、このことが神に対する聖であった。

\* パリサイ派は人の死後、善人は神の国に入り、悪人はハデス(地獄、火の池、黄泉)に入ると信じていた。

## ・ 20～21節

- ・ 20節：パリサイ人たちが、神の国はいつ来るのかと尋ねた。
- ・ 今来ている。一具体的には教会がそれである。「教会は天国の控えの間」

## ・ 22～30節

- ・ 22節：あなたがたが、人の子の日を一日でも見たいと願っても、見られない日が来ます。
- ・ 昇天後のこの世の様子。ルカ 21:8
- ・
- ・ 24節：人の子の日、人の子は、稲妻がひらめいて天の端から天の端まで光ると、ちょうど同じになります。
- ・ 将来のイエスの再臨は全世界の人が同時に知る。それまでの人の生活はノア、ロトの時のように外部状況はどうあれ普通の生活である。

## ・ 31～35節

- ・ 33節：自分のいのちを救おうと努める者はそれを失い、それを失う者はいのちを保ちます。
- ・ 34節：あなたがたに言いますが、その夜、同じ寝床で人が二人寝ていると、一人は取られ、もう一人は残されます。
- ・ 救いは自己責任?!
- ・ Iコリント 7:16 「妻よ。あなたが夫を救えるかどうか、どうして分かりますか。また夫よ。あなたが妻を救えるかどうか、どうして分かりますか。

## ・ 37節

- ・ 「主よ、それはどこで起こるのですか。」
- ・ 「死体のあるところ、そこには禿鷹が集まります。」
- ・ 問に対して直接的な答えではない。しかし必然的に神の国は来ますという答えである。

## 3. まとめ

- ・ ルカ 9:23 「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」